

苔テラリウム作り

製作時間 約30分

※製作時間は個人差によって異なる場合があります。

セット内容

苔 大トレイ (390×580mm)	2枚
ピン (ネコ丸ねじ)	48セット
黒土 4L (1人100~150g)	1式
霧吹き	1ヶ
ピンセット	10ヶ
おわん (苔を取り分ける用)	96ヶ
スプーン	20本
ポスター	2枚

地味だけど健気でかわいい！！癒される～！

ピンサイズ：90mm×97mm □径φ46mm

お客様御用意の物 「☆」は、必ず必要な物
「・」は、あると便利な物

- ・作業用テーブル (床で作業がやりづらい場合)
- ・量り (黒土の分量を量る)
- ・園芸用スコップ (黒土を軽量する際に使用)
- ・ティッシュ・ウェットティッシュ (ピンに付いた汚れをふき取る為)
- ・お持ち帰り袋

—— イベントをスムーズに進行させるために ——

- 同時進行の場合は10人前後がのぞましい。なお、多人数で同時進行の場合は作業用テーブル等をお客様で御用意下さい。

苔テラリウムの作り方（制作時間：約 30 分）

材料 苔 (390×580mm)×2 セット

※苔は、育成状況により種類が変わります。

※目安納期はご注文後、約2週間になります。

ガラスビン（フタ付、295ml）×48 個

黒土（4ℓ）×1 袋

備品（おわん・霧吹き等）×1 式

1. 苔を切り分け、霧吹きで水をやる

ハサミ等で1人分の大きさ（約5cm角）に苔を切り分けます。

苔は、やや乾燥した状態でのお届けになりますので、霧吹きで湿らせて下さい。苔全体が適度に湿る位にして下さい。

※直接水をやるのではなく、霧吹きを使って下さい。



1人分に分けた後は、付属のおわんに入る大きさに切り、霧吹きで水をやって下さい。

ゴミ（小石、枯れ葉など）が付いている場合は、この時に取りっておくと、見栄えが良くなります。

2. 黒土の準備

はかりを使って、1人分約70gの黒土を付属のおわんに取り分けて下さい。次に、霧吹きで黒土を湿らせます。黒土全体が湿るようにスプーンでかき混ぜ、土玉が出来る程度まで湿らせて下さい。



3. 黒土をガラスビンに入れる

黒土をスプーンでガラスビンに入れていきます。丘を作るイメージで、真ん中あたりを少し高くすると見栄えが良くなります。

※直接水をやるのではなく、霧吹きを使って下さい。



4. 苔をガラスビンに入れる

最初に準備しておいた苔をピンセットを使って、ガラスビンに敷き詰めていきます。ハサミなどで形を整えたりデコボコを均しながら、敷き詰めて下さい。土が余っている場合は、苔と苔の隙間に詰めていって下さい。



5. 霧吹きで水をまんべんなく吹き付ける

苔を敷き詰め終わったら、霧吹きでまんべんなく苔を湿らせて下さい。ただし、水が浮き出るのはやり過ぎなので、あくまで湿らせる程度です。水滴や土がついたビンの内側は、ティッシュペーパーで綺麗に拭き取って下さい。



苔テラリウムの注意点

苔テラリウムの土

今回は、一番手軽に入手出来る黒土を使用しました。

他には、樹皮土壌やケト土、いろいろ混ぜた混合土などがあります。好みもありますので、インターネットや苔専門店などで自分の好みにあった土を調べてお使い下さい。また、軽石やソイルを土の下に敷くことで水はけや保水の効果を得られます。但し、全ての苔に当てはまる訳ではないので、苔の種類によって使い分けて下さい。

カビ対策

苔テラリウムの環境は、カビが好む環境でもあります。

特に、口の狭いビンを使用する場合は、口の狭さが多湿な環境を維持するのですが、同時に空気の流れが少ない為にカビが発生し易くなります。

カビ対策で重要なことは、日頃のお手入れ（湿度調整）です。

苔は、湿った環境を好むと思われがちですが、意外と高温多湿に弱くて蒸れるのを嫌います。（苔の種類にもよります）

お手入れ要らずでほとんど手が掛からない苔テラリウムですが、表面が乾いてきた際に、霧吹きなどで水をあげます。水やりの直後には、すぐフタをせず、余分な水分を蒸発させるために半日程度フタをしないで置いて下さい。また、ビンが湿気で曇っている時にもフタを開けて涼しい場所に移動し、曇りが取れてからフタをして下さい。

もしカビが生えてしまった場合には、酢または木酢酢を 1000 倍程に薄めてカビ表面を拭き取り、その後、1000 倍程度に希釈した園芸用の消毒液を噴霧して下さい。

カビが再発してしまう場合には、一度苔と土を全てビンから取り出し

て下さい。ビンは熱湯消毒し、仮根が付いていない部分の土は新しいものと交換して下さい。苔は、消毒をしてから、日陰の風通しの良い場所においてしばらく管理します。その後、育成が安定したところでビンに戻すとカビが生えにくくなります。

※苔は、乾燥には強く、高温多湿を嫌いますので、週に1度位霧吹きでしっかり湿らせてあげるだけで十分です。